

# ハンケイ

# 5<sup>m</sup>

手をのばせば  
すぐふれられる。  
そんな世界を知るマガジン

VOGUE

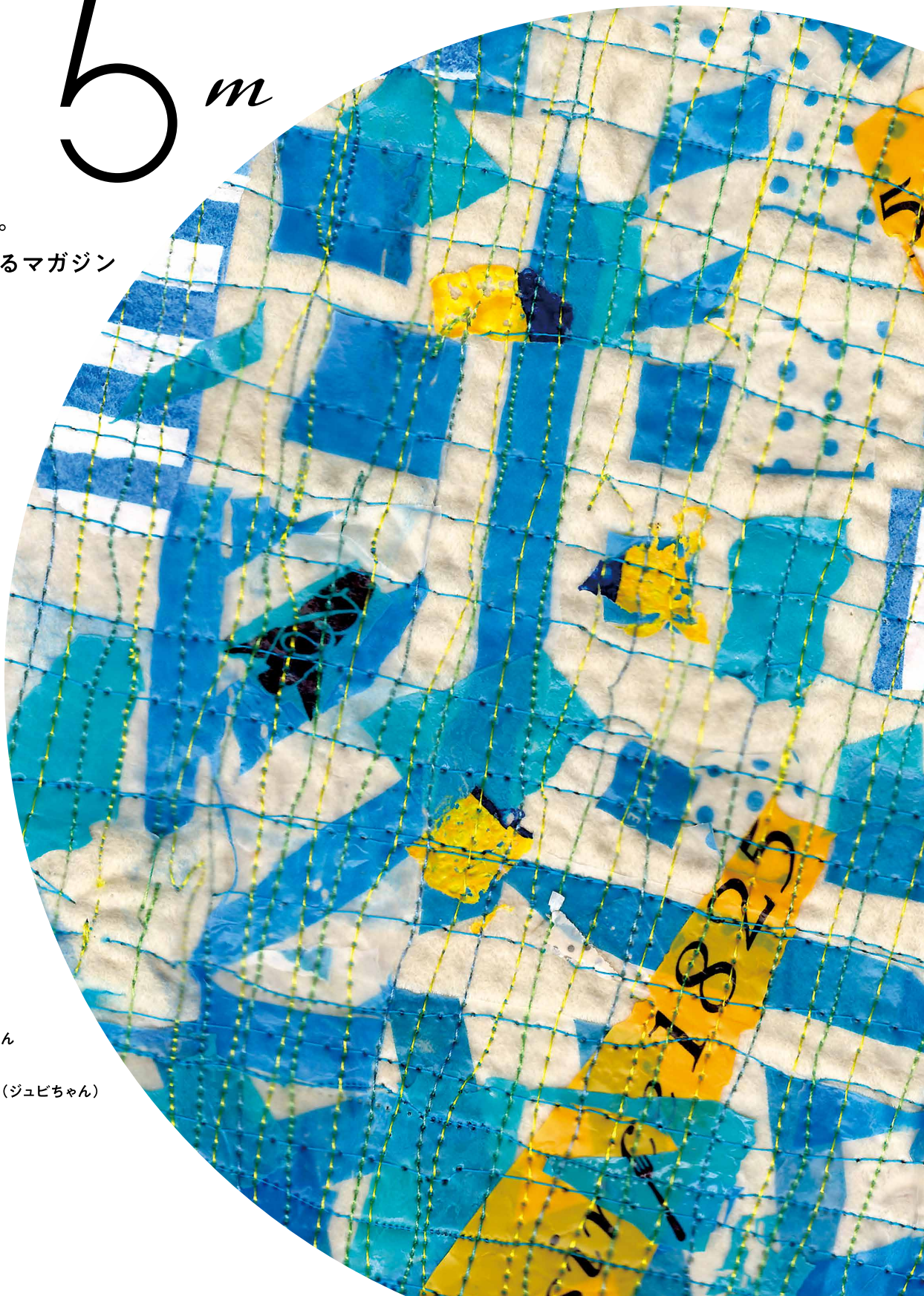
1

創刊

FEATURE

加藤千明さん

Juvichan (ジュビちゃん)





COVER ART OF HANKEI 5m

## 今号の表紙アート



厚手のフェルト生地に、  
レジ袋などリユースの  
プラスチックをアイロ  
ンでプリント、その上  
からミシンをかける。  
(裏表紙は制作途中のもの)



### 「Petit Pinceau」のオリジナルファブリック

兵庫県神戸市で、アートによる就労支援を行  
う、アートセンター<sup>かなう</sup>叶。今号の表紙アートは、そ  
こで立ち上がった商品企画開発プロジェクト  
「Petit Pinceau」<sup>プチパンソー</sup>のオリジナルファブリックから。ハ  
ンディキャップを持つメンバーが独創性溢れる柄を  
作り、そこにプロのアーティストがミシン刺繍を施  
して完成する。この作品は、山内麻友美さんとア  
ートティーチャーでテキスタイル作家の岡みちこさん、  
梅田香織さんによるものだ。

とても丁寧に作業をする山内さんは、これらの作品も  
それぞれ1ヶ月以上掛けて制作した。下書きのない発  
勝負は、想像していたものと違う印象になることもある。  
しかし、その偶然から生み出される柄には、独特の可愛  
らしさが滲み出る。一人ひとりの無垢な感性のもとに、  
無限の可能性が広がっている。

「Petit Pinceau」のオリジナルファブリックを  
使用した雑貨は、こちらから購入できます！



# ハンケイ 5<sup>m</sup> vol.1

手をのばせば  
すぐふれられる。  
そんな世界を知るマガジン

## CONTENTS

### FEATURE

- 02…………… 加藤千明さん  
「盆略点前」の茶道を通し、  
すべての人が暮らしやすい  
社会の実現を目指す
- 06…………… Juvichan (ジュビちゃん)  
LGBTQであることを公表した  
京都市交響楽団コントラバス奏者
- 10…………… 俊朗の映画話
- 11…………… ホホホのすすめ
- 13…………… ハンケイ 5m 創刊に寄せて



adnurse\_kyoto



「ケアする手」は、小さいです。  
でも、その小さい手が、  
だれかのための、大きな力になると  
私たちは信じています。

「ケアする手」で、幸せを届けます。



@adnurse\_kyoto  
Instagramで「ケアする手」を紹介中！  
株式会社アドナース



# 「車椅子だから、 快適な茶道の楽しみ方に 気づけました」

FEATURE 1

「盆略点前」の茶道を通じ、  
すべての人が暮らしやすい  
社会の実現を目指す  
「車いすおもてなし隊」の  
加藤千明さん



机の上に置かれた盆に、棗、茶杓、茶筌、茶碗が並んでいる。ひとつひとつを確かめるように見つめた後、

振袖に身を包み車椅子に乗った加藤千明さんは、ずっと姿勢を正した。帯に着けた帛紗を抜き取って、丁寧にさばいていく。指先からはりと広がった朱色の帛紗は、やがて手の内でゆっくりとたたまれる。

凜とした雰囲気の中に、軽やかな茶筌の音が心地よい。その手が止まると、束の間の静寂をおいて、一碗の薄茶が差し出された。「茶道は和文の総合芸術。関わる人たちがすべての思いを、自分のお茶で伝えたいので

す」。柔らかな蕾が花開いたように、加藤さんの笑顔がこぼれた。

本来の、茶の湯の  
「もてなし」に沿うように。

千利休が「侘び茶」を大成して以来、和の文化として伝えられてきた茶道。茶室の中で正座してお茶をいただく印象が強いが、椅子に座るスタイルの歴史は意外に古い。1872（明治5）年に開催された第一回京都博覧会。訪れた外国人をもてなすため、裏千家十一代家元玄々斎が、テーブルと椅子を使った点前「立礼」を考案した。その後、十三代圓能斎

が、必要最少の茶道具で行う「盆略点前」を創案し、時代に応じた手軽な茶道の楽しみ方として広まった。

「盆略点前」は、30センチほどの大きさの盆に茶道具を並べて行う点前だ。「畳で正座」だけでなく、「テーブルと椅子」でも茶をもてなせる。4年前に「盆略点前」の茶道を始め、加藤さんは裏千家の中級資格を持つ。より多くの人たちに茶道の楽しみ、和 문화の魅力を体験してもらおうと、国内各地で「おもてなし活動」としてお茶を点てている。

「初めてだったんです。自分もてなす側になったこと」。

いつも生活の中で他者の介助を受けてきた。だからこそ、自分が点てた一碗のお茶で、日頃の感謝を伝えたい。それが、加藤さんのおもてなしの極意だという。

「できない」ではなく  
「工夫」で願いを叶える。

加藤さんが生まれ育った三重県は「伊勢茶」の産地。茶畑が広がり、陶磁器「萬古焼」でも知られる。そんな環境もあって、子どもの頃から身近にあった和文化に心惹かれていた。

原因不明の疾患から徐々に歩けな





田中賀鶴代先生のアシスタントとして「おもてなし」についての講演会をすることも多い。全国各地で盆略点前の魅力を発信している。

右から、加藤さんの茶道の師である田中賀鶴代先生、誰もが簡単に着られる着物を広める中野孝郎さん、その着付けを担当する田中美代子さん。家族のように和やかな雰囲気だ。



抹茶碗とアイシングクッキーは、どちらも女性造形作家・岡本彩さんが手がける「銀雪の里」のもの。「干菓子の代わりに、クッキーを選びました。お抹茶にもよく合います」と、加藤さん。愛らしいキツネの親子が秋のお月見を連想させる。



どうしても着たいから、  
思い切って、浴衣を上下に切ったんです。

茶道で膨らむ夢、  
多様な人とのコミュニケーション  
和文化に親しみ、憧れを抱いて育った加藤さん。陶芸、着物、菓子など、茶道はさまざまな和文化が複合的に関わる。それぞれの文化を知れば知るほど、茶道の奥深さに心動かされるという。「茶道を楽しむために、茶室のことも知りたい」。加藤さんは京都の大学の通信講座で和風建築についても学んでいる。

くなり、車椅子での生活を始めたのは5歳の時。「体育の授業など、小中学校の時から車椅子だとできないことが多かった。だからでしょうか、いつも何か工夫したらできるかな、と考えていました」と、振り返る。加藤さんの創意工夫、チャレンジ精神を象徴するエピソードがある。中学生の夏、「浴衣を着たい」という願望にかられ、思い切ってハサミで上下に裁断してみたのだ。「もともと手先は器用だったので自信はあったんです。でも、どう縫えばいいかわからず……。祖母に手伝ってもらって、車椅子でも着られるセパレートの浴衣に仕上げました。紺地にピンクの可愛い花柄で、今も大事に取っています」。

「露地に配された飛び石や、あえて狭く作られたにじり口。茶室の随所に、茶の湯の心が息づいています。段差が多いから車椅子では行けないでしょう。でも自分でデザインした茶室なら車椅子でも行ける、と思ったのがきっかけです」。

自分のハンディを制約として捉えるか、創意工夫の出发点として考えるか――。自らハサミで裁ち切った浴衣が唯一無二の宝物になったように、茶道を通じた経験は、新しい世界を教えてくれる。加藤さんの次の目標は、車椅子で山に登り、自然の中で「野点<sup>のど</sup>」のお茶を楽しむことだ。

「正座の苦手な外国からの観光客や、足の不自由な高齢の方でも、気兼ねなくお茶を楽しんでいただける。車椅子だから気づけたのだと思います。誰にとっても楽しいお茶で、おもてなしできるのが、盆略点前のいちばんの魅力です」。

加藤さんは今、茶道を通じて多様性という言葉を噛み締めているのだそう。テーブルで茶をもてなすことで、茶道に縁が無かった多様な人たちとつながり、ともに心豊かなひとときを味わえる。丁寧に差し出される彼女の一碗は、優しさと希望にあふれている。



「気づいたときから、自分のやりたいことを始めてみる。  
そうしたら、世界がどんどん広がった」



LGBTQであることを公表した  
京都市交響楽団コントラバス奏者

Juvichan（ジュビちゃん）

#### 旋律に「愛」を託して

異能のコントラバス奏者、と呼ぶべきか。京都市交響楽団のメンバーとして活躍する一方、音楽動画のYouTube配信、人気ロックミュージシャンとのコラボレーション、さらには作曲家としての活動まで。まるで万華鏡のように多彩な音楽を創造するJuvichan（ジュビちゃん）について、語るべきことは数多い。

けれど、あえてひとつの言葉に集約するならば、それは「愛」ということになるのかもしれない。音楽を愛し、自分自身を愛し、今を生きるこの瞬間を愛すること。

自分の才能に、自分という人間に、気づいたその日から、愛を奏でるその旋律は、彼女の人生の歩み、そのものの響きになった。

#### 音楽への夢、現実の壁

音楽の芽生えは、家にあったクラシックのレコード全集だった。  
「小学校に上がるころには、ベートーヴェンの交響曲第五番をひと通り覚えてくらい、クラシックが大好きでした」。

生まれは神奈川県横浜市。小学5年の時、両親の故郷である広島県福

山市に転居。中学に入りブラスバンド部でトランペットを始めた。

一方でユーミンやYMOなど、ポップ音楽に傾倒し、バンドを結成。エレキギターを持ち、「将来はポップミュージシャンになりたい」と夢を描くようになる。

高校では、当時ブームになっていたフュージョンにも影響された。夢を実現したいと、卒業後は東京の音楽専門学校へと進んだ。

「上京して、愕然としました。難易度が高いプロの楽曲を、同年代が完コピしているんです。とても敵わないと思いました」。彼我の差を目の当たりにし、夢は萎んだ。失意に暮れる中で、小さな偶然が訪れる。

「友達が『要らなくなったコントラバス、5万円で買わないか？』って。もちろん私は弾けないんだけど、家に飾っておいたらカッコいいなと思って。譲ってもらったんです」。

運命、かどうかは分からない。インターネットには高張り過ぎる、20歳を過ぎて、ジュビちゃんは、そんなふうコントラバスと出会った。

#### 花開く、才能との出会い

縁がなかったコントラバス。眺めていると、夢がまた、ふつつつと膨らみ始めた。

弦の数こそ違えど、ギターと同じ弦楽器。クラシック音楽は、子どものころからレコードが擦り切れるほ

ど聴いてきた。

「コントラバスを弾いてみよう」。

そこにはやはり、音楽を生業にしたい自分がいた。

自分の可能性、音楽への愛に忠実に、まったく弾いたことのないコントラバスを手にしたのだ。「狭き門」は承知の上で、20歳からクラシックで音楽大学を目指すことになる。才能か、いや運命だったのだろうか。

「お前はプロの演奏家になれる」。わずか半年ほどの練習で、師事した先生から太鼓判を押され、大阪音楽大学に見事合格。入学早々、演奏の仕事の声がかかる。子ども向けのコンサートに始まり、大物歌手のバックバンド、オペラの舞台まで。呼ばれた先々の現場で必死に腕を磨く日々、仕事として、音楽を演奏する楽しさにのめり込んだ。4年まで通った大学を中退。関西を拠点とする管弦楽団のオーディションに合格し、晴れてプロのコントラバス奏者としての人生を歩み始めた。

#### 「違和感」としての気づき

夢は叶った。順調にキャリアを重ね、気づけば40代のベテラン演奏家に。しかし、いつ頃からだろう。心の内に、違和感が膨らんでいた。

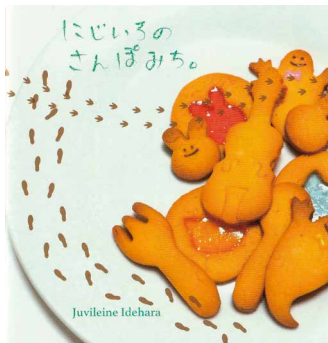
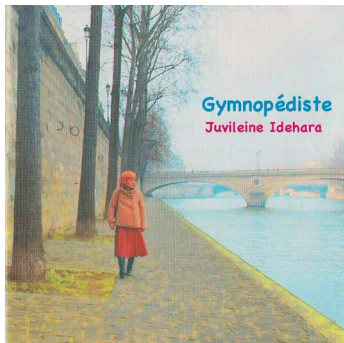


2018年、円山公園野外音楽堂でのリハーサルの様子。  
この日は、弦楽三重奏で演奏に参加した。





自作動画を配信している「Juvichannel (ジュビチャンネル)」は、演奏から練習アドバイスまで、その内容はバラエティに富む。人気動画の再生回数は7.8万回を超えた！



これまでに発売したCD「音楽界の異端児」エリック・サティの作品を収めた『Gymnopédiste (ジムノペディスト)』(左)と、オリジナル楽曲集『にじいろのさんぽみち。』(右)

ある日、ふと目にしたピンクと白の水玉模様の傘に強く惹かれ、我慢できずに購入した。

さした瞬間、満たされる思い。ジュビちゃんの中で何かが変わり始めた。

オーケストラではコンサートの時、男性の服装は燕尾服かタキシードと決まっている。「それがどうしても嫌で、着たくなかったんです」。強い拒否感が生まれ、病院に相談に訪れた。医師は「性同一性障害」と診断し、こう続けた。

「あなたがそうしたい、と思うだけのこと。それを隠す必要もない。あなたの自由にしたらいんじゃない？」。

いま、好きなことをする

……

LGBTQ (性的少数者) である、という事実を認めたジュビちゃん。そこから、自分らしく生きるための新たな日々が始まった。服装や髪型、容姿を変えていく過程は、周囲の人たちや両親との関係を再構築することでもあった。それは新しい世界の創造にも似た営みだ。

自分を見せてみよう。そんな思いから、5年前、YouTubeで動画配信を始めた。見せるのは音楽だけでなく、ジュビちゃんの日常。それがいいのか悪いのか、まったくわからない。手探りで迷いながら、とにかく自分を発信し続けた。

そんなとき、音大時代からの大切な友人が末期がんを患ったと知る。見舞いに行く、思っていた以上に友人は弱っていた。手持ち無沙汰の友人宅で、自作の配信動画を見せてみた。金髪にフリルのついたピンクのドレス姿のジュビちゃんが、打ち込みのポップミュージックに合わせて、ハツラツと踊っているコメディだ。それを見て、元気がなかった友人が、初めて笑ってくれたのだ。

「面白いと思う。人生なんて短いやから。好きなことをやったらええねん」。

その言葉が、ジュビちゃんの背中を押してくれた。

ひとと違うことを恐れずに。ありのままを愛し、自分の得意とすることを選び続けるならば、人生はもっと自由になる。それがいつからでもいい。

「気づいたときから、自分のやりたいこと、楽しいことをやる。そっちの方が、自分の世界がどんどん広がっていきます」。

いつだって今この瞬間が、新しい人生の始まりの日であるように。祝福に満ちた愛を、音楽に乗せて届け続ける。



ピンクと白の水玉の傘。  
さしたときに、世界が変わった気がした。



# Recommended Movies

## 俊朗の映画話

### 年間100本映画を見る福山俊朗の映画コラム



福山 俊朗 (俳優)

神戸大学在学中に劇団そとばこまちに入団、15年間に籍しフリーに。170本以上の舞台に出演、テレビ・映画出演も多数。2014年、演劇ユニット「はひふのか」を結成。その他にもFMラジオのDJ、歌のお兄さん、落語、クラシックコンサートなどのMC、映画監督、などマルチに活躍中。

映画を見ると、以前に比べて物語の中にLGBTQの人たちがよく登場するようになったことに気づきます。クラスメイトだったり、職場の同僚であったり、兄弟や親せきであったり。しかし、そのセクシュアリティが映画のテーマになっていないことも多く、LGBTQの人は脇役で、ただその世界に存在している。それだけ「LGBTQの人たちは珍しくない」という感覚が社会的に広がってきているんじゃないか、と感じています。

とはいえ、今回ご紹介する映画は両方とも、がつつりその人たちが主人公になっている作品です。ー本目は二大実力俳優がゲイのカップルを演じた『スーパーノヴァ』（2020年）。ピアニストのサム（コリン・ファース）と作家のタスカ（スタンリー・トゥッチ）は20年来のパートナーで、安定した幸せを築いてきました。しかしタスカは認知症を患っていて、近い将来、彼は愛するサムのことさえ分からなくなってしまう。

なってしまう。それでも最期まで添い遂げようとするサムと、そうなる前に別離を望むタスカの切ない愛の行方が描かれます。

私はこの映画を見て、とても新鮮な感覚を覚えました。それはこの2人が男女のカップルとまったく同じ描かれ方をされていて、つまりはなんの特異性も感じられなかったからです。普通の（という言葉自体がもう何が何かわかりませんが）マジョリティの男女の夫婦がこういった問題に直面する物語はいくらでもあるでしょう。この映画はその2人がたまたまゲイのカップルに置き換えられただけで、そこにゲイとしての葛藤はほぼ描かれていませんでした。2人はサムの実家で家族や友人たちと楽しい時間を過ごします。そこには2人がゲイだからと言って押しつける人はいません。もう何十年も家族として友人としてタスカはそこでの時間を過ごしていることがわかります。

ゲイのカップルを主人公に据えて、ここまでセクシュアリティのことをテーマにしない映画を見たのは初めてかもしれません。これはとてもとても素晴らしいことではないかと思いました。LGBTQはマイノリティかもしれないけれども、それは割合が少ないだけで、人としては何も変わらないということは無意識に認識させてくれる映画でした。実際の社会でもこの映画の感覚が主流になればと願うばかりです。



スーパーノヴァ  
Supernova  
2020/ イギリス /95 分  
監督：ハリー・マックイーン

そしてもう一本、手前みそながらご紹介させていただきますのは、不肖私が監督・出演しております『Moonlight Club THE MOVIE』。これは場末の

作品はもとも演劇で、この7年間で16本上演されている人気シリーズですが、それがこの度映画になりました。舞台の映画化ということで、2人ないしは3人の会話劇のオムニバスとなっています。スピーディーな会話と京言葉が織りなす独特の世界観に笑っていただけなら幸いです。2000% Comedyですが、しかしながら「オカマちゃん」としてのちょっとした悲哀は『スパークノヴァ』に比べると少しは触れているかもしれません(笑)。



ムーンライトクラブ ザムービー  
Moonlight Club THE MOVIE  
2021/ 日本 /60 分  
監督：福山俊朗

# Recommended Books

## ホホホのすすめ

### ホホホ座名物店主が語る おすすめブックス



山下 賢二 (ホホホ座店主)

21歳の頃、友人と写真雑誌「ハイキーン」を創刊。その後出版社にて雑誌編集に携わり、書店での店長経験を経て、2004年に「ガケ書房」をオープン。2015年「ガケ書房」を移転、改名し「ホホホ座」をオープン。本屋であり雑貨屋でありお土産屋でもあるというユニークなお店の形態が話題を呼ぶ。

場末のショーパブ  
「Moonlight Club」ではじまる、  
ひろ美としゅん子とサチエの物語。

10.9 SAT 10 SUN  
上映：京都みなみ会館 1日2回上映

※上映時間は京都みなみ会館のHPにてご確認ください。  
9/1(水)〜チケット予約販売中！  
【京都みなみ会館 HP】<https://kyoto-minamikaikan.jp/>



喫茶店で  
松本隆さんから聞いたこと  
山下 賢二・著  
夏葉社 1540 円 (税込)

はじめまして。京都市左京区でホホホ座浄土寺店という「やけに本が多いお土産屋」を営んでおります山下と申します。第一回となる今回は「挨拶代わりに、丁度、7月と8月に出た僕の手掛けた本をご紹介させていただきます。

まずは、この方の誕生日となる7月16日に発行された『喫茶店で松本隆さんから聞いたこと』（夏葉社）という本。タイトル通り、僕が作詞家の松本隆さんに京都の4つの喫茶店で話してもらったことをまとめたものです。こ



ガケ書房の頃 完全版  
山下 賢二・著  
ちくま文庫 880 円 (税込)

の本は、これまでたくさんさんの媒体で語られてきたお決まりの「昔話」ではなく、72歳となった松本さんの現在の考えを聞いています。

例えば、「孤独について」とか「才能について」とか「SNSについて」とか。普通の人生とは違うたくさんさんの酸いも甘いも経験してきた松本さんの定義がここに印字されています。

もう一冊は、元々、先ほどの本と同じ夏葉社から出ていたのですが、このたび文庫化されました。タイトルは『ガケ書房の頃 完全版』（ちくま文庫）。僕は以前、ガケ書房という外観が印象



ホホホ座浄土寺店  
京都市左京区浄土寺馬場町71 ハイネストビル1F  
営業時間 11:00〜19:00 (無休)  
TEL 075-741-6501  
<http://hohohoza.com>



はひふのか Presents  
Moonlight Club  
ムーンライトクラブ ザムービー  
THE MOVIE



# ハンケイ5m

手をのばせば  
すぐふれられる。  
そんな世界を知るマガジン

## 創刊に 寄せて

改めて自分のハンケイ5mを眺めてみました。  
誰かに紹介したくなる人でいっぱいでした。

鎌田智広(スペシャルアドバイザー)

自分の極近くに、あふれている希望と挑戦。  
触れてみたら、勇気ができました。

円城新子(編集)

先入観があったとしても、  
触れて知って、そうなんだ!と気づいたら  
それで良いのだと思う。

山田梨世(編集)

『人生で最も重要な日を二つ挙げるなら、  
それは生まれた日と、その理由を見いだした日だ』。  
マーク・トウェインの言葉を改めて感じた取材でした。

辻正美(カメラ)

大切なものは近くにあるのに、  
いつも見逃してしまうんだ。

呉玲奈(編集)

半径5mの輪をつないだ先に、  
どんな景色が待っているのか。  
日常こそ冒険。今を生きるひとを巡る、  
スロウな旅の始まりです。

龍太郎(ライター)

本誌を通して様々な人の想いや  
チャレンジを知れるのが楽しみです。

北原靖浩(デザイン)

ハンケイ5mで社会の見方が変わる  
きっかけや、気づきにつながると  
良いなと思いました。

DesignMINUTE(デザイン)

# ハンケイ5m

手をのばせば  
すぐふれられる。  
そんな世界を知るマガジン

vol.1

2021年9月13日発行

発行 株式会社アドナース  
京都市西京区大原野西境谷町2丁目14-10  
075-754-6174  
株式会社union.a  
京都市左京区北白川西平井町22-2  
075-724-0410

企画・制作 株式会社union.a

Staff 円城新子  
呉玲奈  
山田梨世  
龍太郎  
辻正美  
北原靖浩  
DesignMINUTE  
もりはなぐみ

スペシャルアドバイザー 鎌田智広

## Quatre SAISONS Juvichan2021

日程 10月20日(水)  
19時開演(18時開場)

会場 京都市北文化会館

8月30日開催予定だった同公演。京都府緊急  
事態宣言下の公演延期要請を受け、10月20  
日に延期開催が決定しました!

チケット購入 チケットぴあ [Pコード] 203705 / JEUGIA APEX 075-254-3750  
主催・お問い合わせ 株式会社 宮部企画 075-432-7313 <https://miyabekikaku.com/>



## ハンケイ5m 設置・サポーター募集について

『ハンケイ5m』創刊に際し、もっと多くの方の手に取っていただけるよう新  
規設置場所を随時募集しています。また、『ハンケイ5m』の価値観に賛同し  
てくださるサポーターの方も募集しています。

設置について・サポーターについては、[info@hankei500.com](mailto:info@hankei500.com) までメールでご連絡ください。



フリーマガジン 自分たちの足で見つけた、オリジナルな情報。本物を知る「京都人」のためのフリーマガジン。

# ハンケイ500m

昔から京都の本物を支えてきたのは、伝統的な職人の技。そんな京都の土壌における「職人」というキーワードに着目し、独自の哲学・こだわりを持った現代の「職人」を、ひとつのバス停から半径500mに限定して、じっくり探索。そこで再発見した「京都らしさ」を、皆様にお届けします!

京都市地下鉄全駅、京都市内各所にて絶賛配布中!  
バックナンバーは [www.hankei500.com](http://www.hankei500.com) 毎奇数月 10日発行



ハンケイ500m公式Twitter  
[@hankei500](https://twitter.com/hankei500)

ラジオ 『ハンケイ500m』のこぼれ話が聴けるラジオ。

## ハンケイ500m × KBS京都Radio サウンド版 ハンケイ500m

『ハンケイ500m』がラジオ番組になって、オンエア中! パーソナリ  
ティはサウンドロゴクリエイターの原田博行さんと、円城新子編集  
長。耳で聞く「あるバス停から『ハンケイ500m』の物語」は、雑誌とは  
また別のおもしろさがあります。ポッドキャストでも聞けますよ!

▶▶▶ PodcastでMP3をダウンロード ▶▶▶▶  
▶▶▶ radikoまたはラジオで聴く  
KBS京都ラジオ 毎週土曜17:00~18:00

KBS京都Radio  
FM 94.9  
AM 1143



フリーマガジン 『ハンケイ500m』がつくる就職情報誌。

# おっちゃんとおばちゃん



年4回発行(5月、8月、11月、2月)/A  
4変形判/オールカラー/関西一円の  
大学、ハローワーク、その他で配布

<https://occhan-obachan.com>

本誌『ハンケイ5m』を発行するユニオン・エーが  
手がける、若者向けの就職情報誌『おっちゃんとお  
ばちゃん』。おかげさまで創刊して6年が経過。「い  
い人材に出会えた」と好評をいただいています。  
その理由は、『ハンケイ500m』のノウハウを駆  
使した、掲載企業の徹底取材にあります。大学生や  
求職中の若者が「本気で人生を賭けたい」と、心  
に響く誌面を追求しています。得てして、自社の魅力  
は、経営者ご自身はわかっていないもの。第三者で  
あるユニオン・エーが客観的な目線で書くからこそ、  
生まれる説得力を大切にしています。  
社長の仕事観、社員の実感値。企業が目指すビ  
ジョンを、今どきの若者に刺さる言葉に変換して伝  
えます。取材を通じ、自社の強みを再発見したとい  
う採用担当者の声も寄せられます。

WEB 京都に根差した情報誌×新聞社による新しいWEBメディア。

ハンケイ500m × 京都新聞

# ハンケイ京都新聞

「京都らしさ」とは、  
何だろうか。



hankei500.kyoto-np.jp





✕ *union.a*